低侵襲心臓血管外科手術の最先端

企画：窪田　博
（杏林大学　心臓血管外科）

HEART's Selection

前回の「低侵襲心臓血管外科手術」の特集から3年が経ちました．この間の循環器疾患治療の進歩には，目を見張るものがあります．治療法の多様化，低侵襲化に伴い，様々な選択肢が私たちの目の前に広がるようになりました．内科，外科の垣根は一層低くなり，ハートチームの力を結集して治療にあたる必要性も増してきました．高齢化が進むにつれ，一度の治療にとどまらず，長期予後を考慮した段階的治療戦略の必要性も高まっています．また，選択肢が増える中で，それぞれの治療法の特徴を患者さんやご家族に説明し，情報を共有しながら，いろいろな意味で“最善の”治療法を選択する必要性もより一層増してきたように思います．

そこで今回はテーマを“低侵襲心臓血管外科手術の最先端”とし，大動脈弁疾患，僧帽弁疾患，冠動脈疾患，不整脈疾患の外科治療において第一線でご活躍されている先生方に執筆をお願いしました．実際には，“低侵襲手術”といっても，なかなか具体的なイメージが湧かないことも多いのではないでしょうか．原稿を拝読しますと，もうこの時代に“低侵襲”という言葉は大雑把すぎる表現ではないかと思うほどに，心臓外科分野も多様な進歩を遂げていることに改めて気づかされます．

執筆いただいた先生方には治療における基本的知識，歴史的背景，具体的な方法などに関して，最新の文献的考察も加えて記していただきました．読者の皆様には，各疾患に対する低侵襲治療のイメージがより鮮明に湧いてくるのではないでしょうか．さらに先生方の豊富な経験に基づいた細やかな手術手技の工夫や，それに基づく優れた治療成績，そして将来への展望も述べられています．何より，教科書にはない，執筆いただいた先生方の治療に対する熱い“想い”が込められた内容が印象的です．皆様には，今回の特集をぜひ一読いただき，明日からの医療の実践に役立てていただくことができましたら，この上ない喜びです．